

観光をテーマに地図を使ってみよう！

ブランド農産物に着目した県産品学習のすすめ

—産物記号から観光振興を考える—

玉川大学教育学部 教授 寺本 潔

NEW!

観光をテーマに地図を使ってみよう！





さまざまな地図活用の広場








1 ブランド農産物は観光資源

米穀店をのぞいてみれば、ゆめぴりか、あきたこまち、ひとめぼれ、つや姫、魚沼産コシヒカリ、ヒノヒカリといった銘柄が高価格で売られている。今や、お米は有機米や栄養価、甘み、光沢があるのは当たり前。差別化をめざせば、いかに米生産の背景となるその土地の物語と結びつけられるか否か、いわばプロモーションが大事となる。例えば、山形県酒田市には文化財で有名な山居倉庫さんきょ（NHK連続テレビ小説『おしん』の舞台にもなった）という1893（明治26）年に建設された米穀倉庫がある。かつて、同じ庄内平野で収穫された米でもその倉庫に保管されると、山居米としてブランド化され価格も上がったという。まさに山居倉庫のブランド力である。

社会科では、農産物を扱う場面として3年「地域における生産と販売の仕事」や4年「自県の特徴ある地域」、5年「私たちの生活と食料生産（農水産業）」がある。地図帳で各地の拡大図の中に見いだせる産物記号の多くは、ブランド農産物である。これを観光と結びつければ、社会的な見方や考え方を養う授業が展開できる。

2 魅力的な産物記号

『楽しく学ぶ小学生の地図帳』（以下、地図帳）p.7「産業の記号」欄におもな農業・水産業・林業の産物記号が掲載されているが、地図帳に登場する産物記号はこの欄に紹介されているだけにとどまらない。実は、探してみると多彩な種類の記号が見いだせる。例えば、西洋なし （山形）、れんこん （茨城）、ちょっと縦長の入善すいか （富山）、きく（電照菊） （愛知）、まつたけ

（岡山）、ゆず （高知）、すだち （徳島）、かぼす （大分）などといった個性的なご当地記号がそれである。福島市のあたりには、もも , りんご , なし  の三つの記号が集まっていてフルーツ王国であることもわかる。地図帳の中で産物記号を集めていけば、ブランド農産物が日本の農業を支えている事実もわかってくる。食材の多くは、その土地の著名な観光旅館やホテル、市の観光協会のWebサイトを調べると、ディナー食材やおみやげ品としても見いだせる。

3 産物記号から特産品調べにつなげる













一例をあげよう。地図帳p.33～34「愛知県とそのまわり」を例に、農産物の背景に見える風土を観光の魅力として扱ってみよう。愛知県の東側の三河地域を旅する設定で農産物記号を探せば、南から渥美半島のキャベツ , きく , バラ , メロン , トマト , ブロッコリー , すいか , はくさい , 肉牛 , 豚 , 乳牛 , にわとり  の12種類もの産物記号が発見できる。渥美半島といえば、島崎藤村の「椰子の実」の詩でも有名な伊良湖岬がある温暖で風光明媚な観光地である。春を満喫するためにドライブ旅行に出かけてみれば、これらの野菜畑やビニールハウス、畜舎が車窓からながめられる。道の駅に立ち寄れば、それらのブランド農産物が商品化された品を買い求めることができる。「どうして渥美半島では魅力的な特産品が生産されるのだろうか」を学習問題として提示すれば、「太平洋と伊勢湾・三河湾にはさまれて暖かいから」「よく見ると豊川用水という水路があるから農業がさかんだ」「近くに東名高速道路も走っているから大都



図 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』 p.33~34

市名古屋や東京にも出荷しやすい」という反応が、思い浮かぶ。田原市のWebサイトで見つけた観光農園の写真なども提示すれば、これらの特産品は観光客にも人気である事実が伝わる。さらに三河湾沿いに蒲郡→西尾→安城と図上旅行すれば、みかん🍊、カーネーション🌺、いちじく🍌の産物記号も目に入ってくる。日本のデンマークともいわれる安城市の農業公園デンパークに立ち寄れば、いちじくを使ったタルトもおみやげで購入できる。つまり、地図帳の産物記号から、その土地の豊かな観光資源としての農産物（特産品）が読み取れる。

④ 農産物に観光PRのキャッチフレーズをつける

拡大図の産物記号から選んだ農産物に、その土地らしさを修飾語として冠してみれば、観光商品になる。例えば、「新鮮な北海道バターと牛乳から誕生したスイーツ」「庄内平野の農家の熱い思いとアイガモたちが育てたつや姫」「野辺山原高

原の夏でも涼しい気候で育ったおいしい高冷地レタス」「瀬戸内の暖かさと海面の照り返しで甘みを増した愛媛みかん」「阿蘇山から流れ下った清らかな水と、水はけのよい土で甘さを増した熊本すいか」などといったキャッチフレーズを児童に考えさせてみると言語力の伸長にも役だち、農産物を生み出したその土地の条件を深く理解することにつながる。指導のコツは地図帳をしっかりとながめさせ、農産物を育てる自然条件を予想させることと、その県や市町村の農協のWebサイトや観光パンフレットでおいしい農産物を調べさせることである。週末に各地で開催されている県産品フェアや旅祭り、デパートの物産展に教師も足を運んでみれば教材集めは完璧だ。

⑤ グリーン・ツーリズムの企画を考える

5年の食料生産の単元では、必ず事例地域の農業が扱われる。教科書で描かれた地域を学ぶ場合もあるが、自分の自治体の事例を軸に日本の農業全体につなげる展開もあるだろう。そのいずれの場合でも、児童のグループに「あなたたちがその地域の市役所（役場）の農政課職員だったら、都会から来た観光客にどのような農業体験で楽しませるグリーン・ツーリズムが立案できますか？」と切り出してみよう。その際、必ず「体験・食・その土地らしさ」の要素を盛り込ませるとよい。例えば、熊本県阿蘇市では、「阿蘇の赤牛の放牧地を散歩してもらい（体験）、ヘルシーな赤身の肉でバーベキュー（食）。雄大な阿蘇の外輪山の草原ならではのリラックス旅が楽しめます（その土地らしさ）」という企画がつけられる。

◆観光授業の玉手箱



- ① 地図帳には、その土地らしさが想像できる魅力的な産物記号がたくさんある。
- ② 産物記号から特産品を読み取り、観光振興につなぐ地域の物語を紡ぎ出そう。
- ③ 体験・食・その土地らしさを要素にグリーン・ツーリズムを考えよう。

寺本潔先生ご執筆の本誌の連載が本になります！ (2009年度1学期号から2016年度3学期号まで、24号分)

『教師のための地図活 地図帳・地球儀・防災・観光の活かし方』1500円（税別）4月3日発売！